



2025年11月14日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ジ ー ニ ー
代 表 者 名 代表取締役社長 工藤 智昭
(コード番号：6562 東証グロース)
問 合 せ 先 上級執行役員(CFO)兼 菊 川 淳
投資戦略部長
(TEL. 03-5909-8177)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：工藤智昭）は、2025年11月14日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ2025年5月13日に公表いたしました2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の通期業績予想を修正することを決議いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上収益	売上総利益	営業利益	税 引 前 利 益	当 期 利 益	親会社株主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益	1 株 当 たり 連 結 当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	百万円 15,300	百万円 11,800	百万円 2,750	百万円 2,600	百万円 2,010	百万円 1,960	円 銭 161.90
今 回 修 正 予 想 (B)	14,150	10,700	2,200	1,950	1,500	1,400	115.65
増 減 額 (B - A)	-1,150	-1,100	-550	-650	-510	-560	-46.25
増 減 率 (%)	-7.5	-9.3	-20.0	-25.0	-25.4	-28.6	-28.6
(参考)前期実績 (2025年3月期)	11,321	8,807	2,520	2,267	2,048	1,954	136.30

2. 修正の理由

当社は、2026年3月期第2四半期時点で売上収益及び売上総利益が20%超の伸長を確保し、競争力ある成長を継続しております。一方、通期の需要動向、運用状況および案件進捗を再評価した結果、当初想定との乖離が見込まれることから、通期業績予想の下方修正が必要と判断いたしました。これに伴い、売上総利益以下の各段階においても従来予想を下回る見通しです。

内訳は以下のとおりです。広告プラットフォーム事業は、国内外ともに、一部広告主によるレギュレーション変更に伴う個社収益の低下および新規顧客の獲得が当初想定より漸進的であったため、売上収益は当初計画を11億円程度下回る見込みです。マーケティングSaaS事業は、「GENIEE SFA/CRM」において高成長を維持したものの、「GENIEE CHAT」における大口顧客の解約により、売上収益は当初計画を3億円程度下回る見込みです。同事業では、組織・体制の見直しや販売費及び一般管理費の最適化を進めており、通期黒字化の見通しに変更はありません。デジタルPR事業は、オーガニック成長に加えM&Aの寄与（2025年9月に美容・化粧品領域に特化したインフルエンサーマーケティング支援および美容クリエイターアカデミー事業を行う株式会社iHackを新たに連結子会社化）もあり、売上収益は当初計画を3億円程度上回る見込みです。

また、2025年10月より、次の成長フェーズに向けた組織再編として、プロダクト別組織から機能別組織への移行を図りました。これにより、顧客情報の共有、業務統合、各プロダクトの一括提供が可能となり、効率的なマーケティング予算配分を実現する見込みです。こうした基盤整備のもと、広告プラットフォーム事業ではAI活用による運用高度化と営業管理体制の再構築を進め、コスト効率を維持しながら来期以降の再成長に向けた施策を優先いたします。マーケティングSaaS事業では、グループ会社であるJAPAN AIとのプロダクト連携・クロスセルを拡大し、機能別組織への移行に伴う各機能領域のケイパビリティ強化と効率化を図ります。デジタルPR事業は、プロダクトのリニューアル効果およびiHackとのシナジー創出を通じ、成長の一層の加速を目指します。

なお、上記業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、実際の業績は今後の諸要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上